

子育て支援、マイナ保険証／初質問で知事と論戦



大沢綾子県議は9月26日の県議会本会議で、初めての一般質問に立ちました。「子育て世代の経済的負担軽減」を大きなテーマに、最低賃金引き上げや給食費無料化などについて、山本一太知事らと論戦を繰り広げました。

最低賃金大幅引き上げへアクションを

10月改定の最低賃金は、24県で中央最低賃金審議会の示した目安に乗せられた一方、群馬は目安通りの40円アップ(935円)にとどまりました。

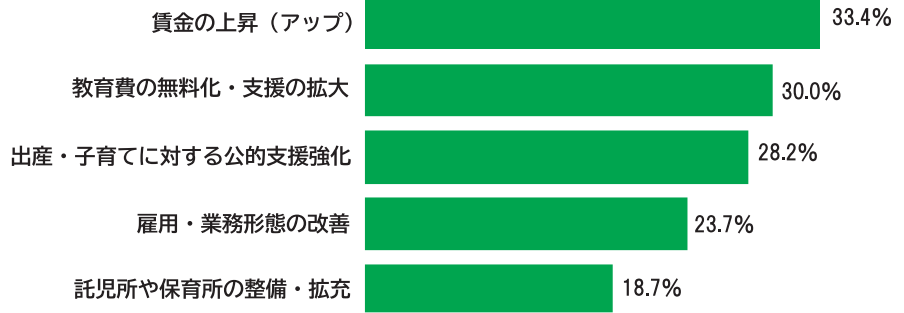
大沢県議は、茨城や佐賀の県知事が、地方審議会に異例の公開質問状や意見書を提出し、最賃の大幅引き上げを求めたことを示し、「それだけ深刻な状況が広がっているということだ。群馬としても何らかのアクションを起こすべきだ」と知事に迫りました。

◆中小企業支援とセットの最賃引き上げ要請を

山本知事は、「審議会の答申を尊重すべきものだと考える」と答弁。大沢県議は、「県民の暮らしに責任を負う知事として、国などに対し、中小企業への支援とセットでの最低賃金大幅引き上げに向けた要請を」と求めました。

国・自治体・企業に求める少子化対策

日本財団／女性1万人意識調査より



子育て世代の経済的負担軽減、自治体間の格差解消へ、給食費無料化に足踏み出せ

学校給食費無料化の質問では、子育て世代の経済的負担軽減、自治体間の格差解消へ、いよいよ県として足を踏み出すべきだと求めました。

◆財政難でも市町村は子育て応援

山本知事が、「限られた財源の中で、県としての実施は現実的ではない」と答弁したのに対し、大沢県議は、「市町村はいま、財政的に厳しい中でも、子育て世代の負担を軽減しようと努力して実施している。がんばる市町村を応援するためにも決断を」と迫りました。

◆県での実施が国に対しても説得力持つ

県としての実施をかたくなに拒む答弁を繰り返す山本知事。大沢県議は、全国に先駆けて18歳までの医療費無料化実施に踏み出した群馬の取り組みが、全国を動かし、国をも動かしてきたと指摘し、「給食費無料化も、群馬県が足を踏み出すことで、国に対しても説得力を持って実現を迫ることができる」と強調しました。